

基地式捕鯨業の状況について

日本小型捕鯨協会

日本小型捕鯨協会所属 捕鯨船



第五十一純友丸 30.0トン



第三大勝丸 19.0トン



第七勝丸 32.0トン



第八幸栄丸 32.0トン

ミンク鯨操業



トップに4人～5人が上り探鯨する



鯨を発見後、追尾し捕鯨砲を発射する。
命中後に鈎に付いたロープで鯨体を引
き寄せる



ミンク鯨は捕鯨船の船尾デッキに
に載せ帰港(ツチ鯨は横抱き)

ミンク鯨操業



岸壁に於いて、クレーンを使用してクジラをトラックに積み込む（渡鯨）



トラックで鯨体処理場まで運搬する。



逆スリップウエーで、トラックから降ろし、解体する。

ツチ鯨操業



追尾 発射寸前



ツチ鯨の渡鯨



令和3年(暦年) 水揚げ地別／鯨別 生産量・売上高 まとめ

<生産量>

	ミンク鯨	ツチ鯨	マゴンドウ	タツパナガ	オキゴンドウ	計(頭数もしくはkg)
捕獲枠	120	76	33	36	20	285
実績	91	33	0	0	0	124
網走	2,427	0				2,427
紋別	21,730					21,730
釧路	33,974					33,974
大畑	53,214					53,214
八戸	19,892					19,892
鮎川	5,561	86,592		0		92,153
和田		48,674	0			48,674
太地			0		0	0
計	136,798	135,266	0	0	0	272,064
1頭当たり	1,503	4,099				

<売上高>

	ミンク鯨	ツチ鯨	マゴンドウ	タツパナガ	オキゴンドウ	計(円)
網走	3,657,091	0				3,657,091
紋別	39,824,372					39,824,372
釧路	67,611,849					67,611,849
大畑	85,136,253					85,136,253
八戸	31,874,481					31,874,481
鮎川	10,211,935	42,685,612		0		52,897,547
和田		28,313,264	0			28,313,264
太地			0		0	0
計	238,315,981	70,998,876	0	0	0	309,314,857
1頭当たり	2,618,857	2,151,481				
Kg単価	1,742	525				

令和4年(暦年) 水揚げ地別／鯨別 生産量・売上高 まとめ

<生産量>

	ミンク鯨	ツチ鯨	マゴンドウ	タツパナガ	オキゴンドウ	計(頭数もしくはkg)
捕獲枠	107	76	33	36	20	272
実績	58	24	0	0	0	82
網走	5,105	0				5,105
紋別	37,439					37,439
根室	12,011					12,011
花咲	3,432					3,432
釧路	3,432					3,432
大畑	27,107	0				27,107
八戸	6,024					6,024
鮎川	0	69,420				69,420
和田		44,753	0			44,753
太地			0		0	0
計	94,550	114,173	0	0	0	208,723
1頭当たり	1,630	4,757				

<売上高>

	ミンク鯨	ツチ鯨	マゴンドウ	タツパナガ	オキゴンドウ	計(円)
網走	10,662,979	0				10,662,979
紋別	78,195,178					78,195,178
根室	21,319,533					21,319,533
花咲	6,091,295					6,091,295
釧路	6,091,295					6,091,295
大畑	55,576,469	0				55,576,469
八戸	12,350,326					12,350,326
鮎川	0	33,002,892				33,002,892
和田		23,938,150	0			23,938,150
太地			0		0	0
計	190,287,075	56,941,042	0	0	0	247,228,117
1頭当たり	3,280,812	2,372,543				
Kg単価	2,013	499				

<令和4年度鯨体処理場・対象鯨種・操業海域>

業者名	小型捕鯨船	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
鮎川捕鯨	1 幸栄丸	鮎川 4/3～4/18 ミンク鯨 捕獲なし	八戸 4/20～5/28 【共同】 ミンク鯨 (太平洋枠) 22頭 大畑沖 八戸沖	網走 6/5～7/1 【共同】 ミンク鯨 (オホーツク海枠) 25頭 網走沖 紋別沖	釧路 7/5～7/22 【共同】 ミンク鯨 (太平洋枠) 4頭 釧路沖 花咲沖 (オホーツク海枠) 7頭 根室海峡	鮎川 7/30～11/18 ツチ鯨 15頭 鮎川沖～常磐沖			
	4 大勝丸	鮎川沖～ 三陸北部							
外房捕鯨	8 純友丸	和田 4/3～ 4/9 ツチ鯨 捕獲なし				和田 8/2～9/13 ツチ鯨 7頭 和田沖 銚子沖	鮎川 9/15～11/7 ツチ鯨 2頭 金華山のイースト線より北 (気仙沼～岩手沖)及び 福島沖(小名浜・いわき沖)		
太地漁協	9 七勝丸	和田 沖～ 銚子沖	鮎川 4/11 ～ 4/18 ミンク 鯨 捕獲なし					←第七勝丸操業最終日、 10月14日	
		鮎川 沖～ 三陸 北部							

4隻共同操業

ミンク鯨	捕獲枠	幸栄丸	大勝丸	純友丸	七勝丸	共同操業	計	残
太平洋	75					26	26	49
オホーツク海	32					32	32	0
計	107					58	58	49

ツチ鯨	捕獲枠	幸栄丸	大勝丸	純友丸	七勝丸	計	残
太平洋	62	7	8	5	4	24	38
オホーツク海	4					0	4
日本海	10					0	10

< 鯨体処理場・対象鯨種・操業海域 >

業者名	小型捕鯨船	3月	4月	5月	6月	7月
鮎川捕鯨	1 幸栄丸	鮎川 3/13~4/5 ミンク鯨 2頭	釧路 4/10~5/31 ミンク鯨 17頭		鮎川 6/4~●/● ミンク鯨2頭 ツチ鯨●頭	
	4 大勝丸	鮎川沖 (3/13~4/1) 大畑沖 (4/2~4/5)	根室沖・標津沖 (4/10~5/18) ミンク鯨 17頭	花咲沖・釧路沖 (5/19~5/31) ミンク鯨0頭	大畑沖 (6/4~6/21) ミンク鯨2頭	三陸・茨城沖 (6/24~●/●) ツチ鯨●頭
外房捕鯨	8 純友丸	鮎川 3/16~3/24 ミンク鯨 0頭 鮎川沖	網走 4/3~4/13 ミンク鯨 16頭 根室沖 (4/3~4/6) 標津沖 (4/8~4/13)	八戸 4/20~7/4 ミンク鯨 32頭 八戸沖・大畑沖 6/15~7/4 ツチ鯨 10頭 日本海		和田 7/13~●/● ツチ鯨●頭 和田沖・銚子沖
太地漁協	9 七勝丸	3/22~ 3/24				

【操業計画】

7月	8月	9月	10月	11月
鮎川	鮎川	釧路	釧路	釧路★2
ツチ鯨	ツチ鯨	ミンク鯨	ミンク鯨	ミンク鯨
三陸・茨城沖 鮎川	三陸・茨城沖 鮎川	道東沖 釧路・花咲	道東沖 釧路・花咲	道東沖 釧路・花咲
	↓			↓
	【漁模様次第】 釧路 ミンク鯨 道東沖 釧路・花咲			【個別操業】 鮎川 ツチ鯨・タツバナガ 三陸・茨城沖 鮎川
7月	8月	9月	10月	11月
和田	和田	釧路	釧路	釧路★2
ツチ鯨	ツチ鯨	ミンク鯨	ミンク鯨	ミンク鯨
和田沖・銚子沖 和田・銚子	和田沖・銚子沖 和田・銚子	道東沖 釧路・花咲	道東沖 釧路・花咲	道東沖 釧路・花咲
	↓			↙ ↘
	【漁模様次第】 釧路 ミンク鯨 道東沖 釧路・花咲		七勝丸 【個別操業】 太地 マゴンドウ・オキゴンドウ 太地沖 太地	純友丸 【個別操業】 鮎川 ツチ鯨・タツバナガ 北東北 鮎川

★1【ミンク鯨オホーツク海捕獲枠配分】 枠33頭、鮎川捕鯨グループ17頭、外房・太地グループ16頭

★2【共同操業】 11月10日頃までの見込み

ミンク鯨	捕獲枠	鮎川捕鯨	外房・太地	共同操業	計	残
太平洋	76	4	32		36	40
オホーツク海	33	17	16		33	0
計	109	21	48	0	69	40

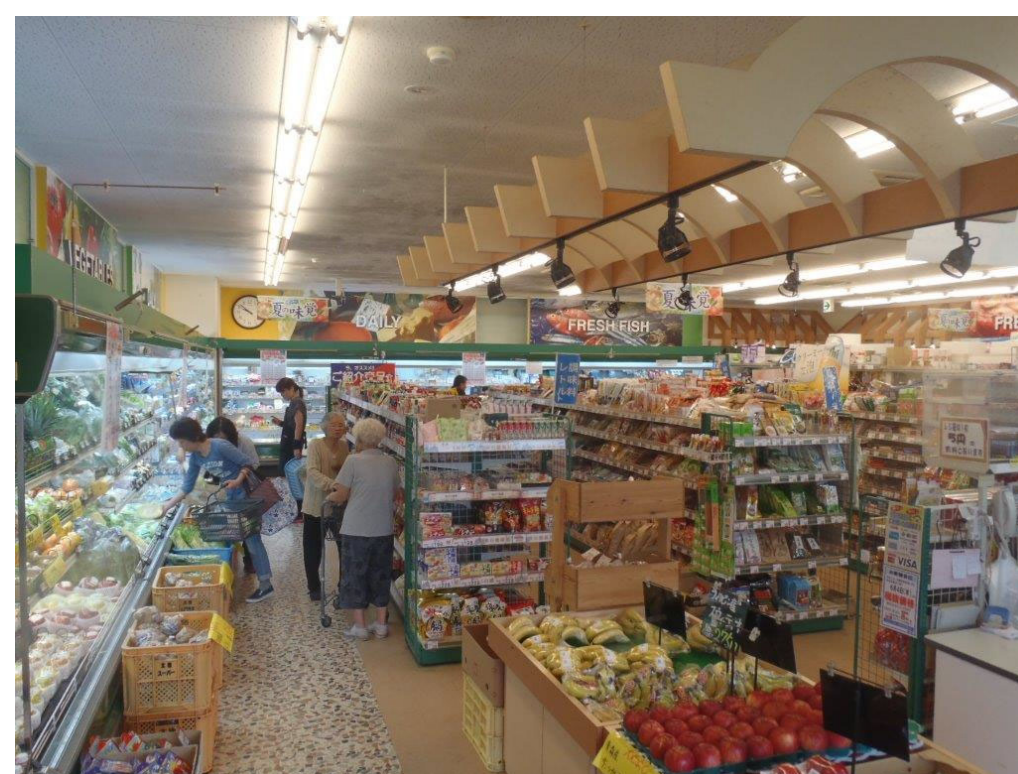
ツチ鯨	捕獲枠	鮎川捕鯨	外房・太地	計	残
太平洋	62			0	62
オホーツク海	4			0	4
日本海	10		10	10	0
計	76	0	10	10	66



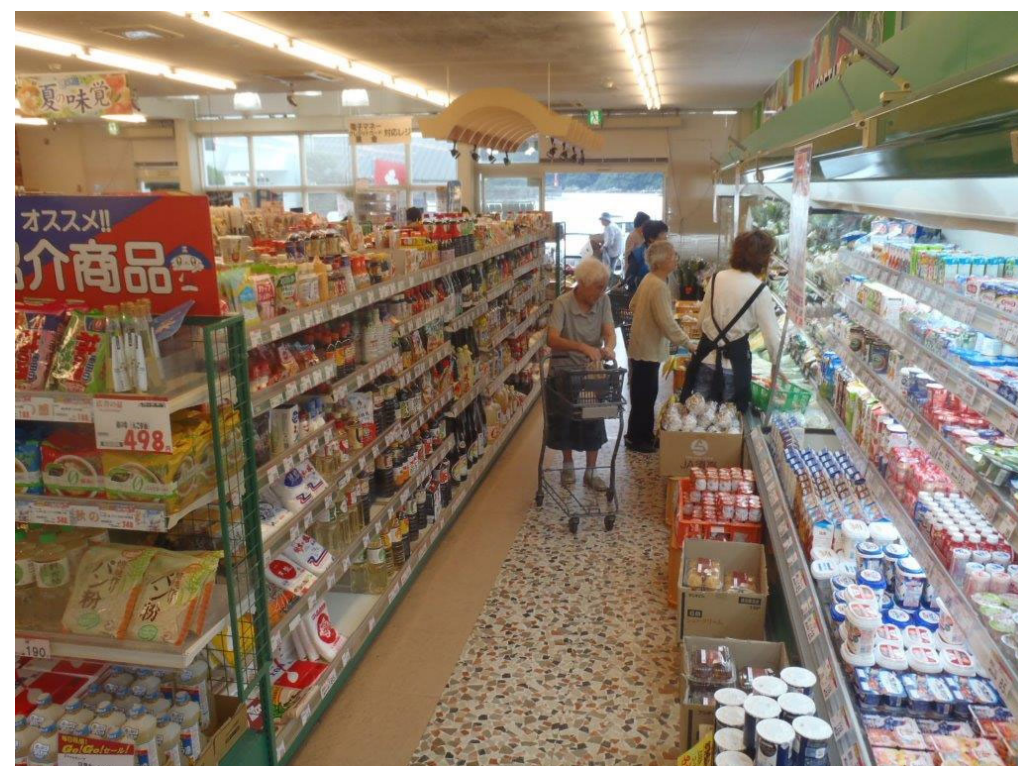




太地町漁協直営の漁協スーパー



令和4年度
年間売上377億円
売り場面積200㎡
1日の平均客数608人
客単価1,571円



太地町漁協が指定管理を受け運営 道の駅「たいじ」



竜田揚げ定食 (1,000円)



イルカの刺身 (800円)





太地町漁協直営
くじらの海シーカヤック
令和4年度利用者2,927名



基地式捕鯨業の課題

【喫緊の課題】

(1) ミンク鯨・ツチ鯨ともに、近年、分布状況が変化し、発見が少ない。資源調査を拡大し、両種の分布状況の変化を明らかにすることを希望する。

(2) 太平洋におけるミンク鯨の距岸10マイル捕獲制限の緩和を希望する。

(3) 共同操業によって経費削減を図り、経営改善に資することを期待していたが、ミンク鯨の発見が少ない中では、捕鯨船を一か所に集める共同操業より、別海域で個別に操業を行う方が、効率が良いと思われること。

令和7年度以降は共同操業を実施せず、通年でグループ毎の個別操業実施を希望するとともに、円滑化実証等事業における流通等効率化事業も適宜修正を希望する。

(4) 近年ツチ鯨操業の最盛期である8月に、台風が頻発する傾向があり、時化によって出漁できない日が多く、操業自体が困難となっている為、日本海でのツチ鯨の捕獲枠拡大を希望する。

(5) アイスランドからのナガス鯨の大量輸入と、将来的に実施されるであろう新鯨種に係る捕鯨業によって、沿岸域に於いて小規模で行っている基地式捕鯨の操業並びに販売への影響を懸念している。

【中長期の課題】

(6) ミンク鯨の日本海資源(J系群)はIWCでは保護資源に分類されているが、日本や韓国における定置網の混獲頭数を見ると、この分類自体が間違っていることが想定されること。本件は上述の距岸10マイルの捕獲制限にも関係しており、分類の適正化が望まれる。